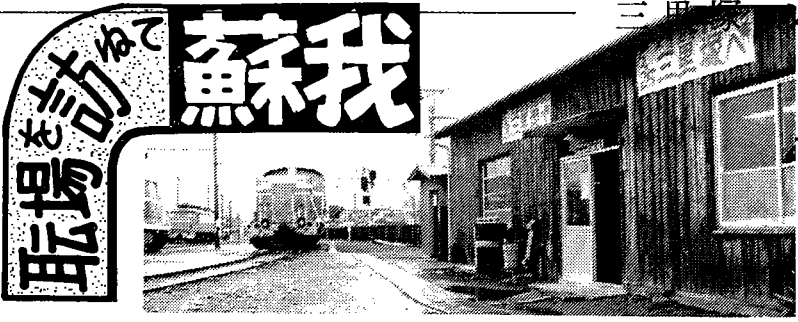


活発な取場討議と 着実に強まる団結の力



不当処分粉砕！ 乗務員運用合理化5510ダイヤ改阻止！

『日刊』編集委員会は、不当処分粉砕・非協力闘争の最中の六月十六日、蘇我支部を訪ねた。さっ急な取材計画であったが、忙しい中を、古川支部長さんをはじめ支部の役員の方々を中心に集まっていただき、貴重な意見を聞かせてもらうことができた。

五年ぶりに全員でプチ抜いた八〇春闘スト

蘇我支部の新執行部は、四月に発足して二ヶ月とちよつと。
支部長の古川昇さんは、就任後、半月で、四・一六スト拠点の責任者として八〇春闘の先頭に立ち、京葉ルートのジェット燃料列車はじめ、合計七二本の貨物列車をとめる底力を示した。
去る五月三十一日には、戒告の不当処分が通告された一人だ。

古川さん 「四月のストのときは、支部長会議の決定をうけて、支部に帰って、役員、組合員と色々話し合った。五年ぶりのスト拠点設定という事もあって、『一票投票をやって進めようか』とか、『心配だ』など、いろいろ不安や意見も出された。
生まれればかりの執行部は、全員身を引きしめて、奮闘したね。組合員全員の卒直な意見をどんどん出してもらった。そして、最終的に職場集会で意志統一し、全員完へきで五年ぶりのストを貫徹することができた。

何でも言いあう……しかし、一人
まとまれば百パーセントの団結！

「蘇我では、公式の場でこそ、あまり意見はでないけど、日常不断に詰所などに集まって、皆んないろいろなことを自由活発にいいあっていますね。」
たしかに、蘇我支部には、昨年の団結署名一支部結成大会を勝ちとってきた道のりによく示されたように、「熟慮断行」「一人ももれない百パーセント団結」型の伝統が大切に守られてきた。決めるまでは、他支部の二倍も三倍も時間をかけ、賛成・反対含めて組合員の間で様々な論議がこれでもかこれでもかとはばかりにかわされる。

しかし、一人、全体の方向性が勝ちとられるや支部執行部のもとにガッチリと団結して、団結署名も一人の脱落もなく百パーセントの結集を実現した。
「一人一倍時間がかかってハラハラするんだけど、しかし一人、方向が決まると絶対に一人もこぼさず支部全体でガッチリまとまっていく。蘇我支部とは、そんな支部だ。底力というんだらう、大したものだ。」と



の名声は他支部にもなりびびっている。もちろん、それだけに、支部の役員さんたちの苦勞も二倍、三倍だ。

50名の支部で30名以上の動員！
一執行部を先頭に着実に前進！
現に、八〇春闘決戦ストをひかえた四月十五日の津田沼支部での総決起集会には、三十数名の動員で参加した。
また、五月三十一日、局前での不当処分抗議集会にも三十名以上が参加。
文字通りの根こそぎ動員。
五十名たらずの支部で三十名以上の動員をかちとることは、大変なことだ。こうして苦勞して全員で闘い抜いた八〇春闘だけに、それに対する敵対、処分攻撃への怒りもまた強いのだ。

「動員が多い」「なぜ三里塚をやるのか」など、様々な意見や不満の声にも、執行部はじっくりと耳をかたむけ、また組合員も腹をわって話しているという。
蘇我支部では、ほとんどの組合員が支部役員を一度は経験することになっている。それだけに、組合の必要性和同時に支部役員之苦勞もお互いに知り合っているのだ。

選別的な不当処分に強い怒り

こうした中で、八〇春闘やその後の不当処分闘いでも明らかかなように組合員の理解と協力が強まっていることも事実。

また、サークル活動も一人で三つも四つも参加している組合員がいるなど大変活発にやられている。現に、本部での囲碁・将棋大会の将棋の部で団体優賞、ボーリング大会での三位入賞などサークル活動は、非常に活発。
こうして、蘇我支部では、支部長の古川さんがいっていたように、「時間はかかるが、着実に一歩一歩進んでいる。」ことを実感しながら支部をあとにした。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！